投資「偽アカ」5000万円消えた

情報開示 高い壁

「桐谷さん」「証券会社」なりすまし勧誘

空前の株高が続く中、著名投資家や証券会社になりすましたフェイク広告や偽アカウントがインターネット上に横行し、投資初心者がお金をだまし取られるトラブルが相次いでいる。金融庁などが注意喚起しているが、専門家は、被害の回復や予防のためには広告を掲載する事業者の積極的な情報開示が必要だと指摘している。（落合宏美）

■「今月チャンス」

「数十万円を100億円超に増やした」。昨年夏、投資を始めたばかりの東北地方に住む50歳代女性のスマートフォンに、「カリスマ」として知られる投資家の業績を紹介するポップアップ広告が表示された。「投資の参考に」と考えた女性は指定されたアカウントに登録し、この投資家から指導を受けているメンバーが集まるというLINEグループに招待された。

やがて「カリスマ」と名乗る人物とやりとりを始めると、投資の知識が豊富な上、助言も的確で、「同郷だね」などと私的なメッセージも届くように。他のメンバーが「数十万増えた！」などと書き込むのを見てすっかり信用した女性は、「今月はチャンス。お金は戻るから頑張ろう」と促されるまま指定の口座に計500万円以上振り込んだ。

返金を求めても説明を二転三転させて応じないため、投資家の公式X（旧ツイッター）に連絡したところ、本人から「（その人物は）私とは違います」と返事が届いた。だまされたと気づいた女性は警察に被害届を出したが、投資家になりすましていた人物は見つからず、お金は戻っていない。預金が底をつき、生命保険も解約した女性は「本人が出した広告だと信じ込んでしまった」とうなだれた。

投資家のもとには、女性と同様の問い合わせが複数寄せられているという。投資家は取材に「信頼してくれた人の気持ちを利用され、憤りを覚える」と話した。

■いたちごっこ

株主優待を活用した暮らしをメディアで紹介している将棋棋士の桐谷広人さん（74）にも、自身になりすましたXの偽アカウントのために複数の苦情や相談が届いている。桐谷さんは本物の公式Xに偽アカウントを引用した上で、「偽物に注意してください」と呼びかけているが、「偽者は次々と現れ、きりがない」と語る。

証券会社へのなりすましも確認されている。ネット証券大手「松井証券」（東京）は公式のXやフェイスブックなどを開設しているが、社名やロゴを無断使用して投資を勧誘するアカウントや広告が複数見つかり、中には、フォロワーが極端に少ないこと以外は公式と見分けがつきにくいものも。同社はSNS運営者に削除を求めているものの、なりすましは後を絶たず、広報担当者は「いたちごっこだ」と嘆いた。

■被害回復難しく

なりすまし被害の相談

桐谷さんは自身の公式Xに偽アカウントを掲載し、「私の偽物に注意してください」と警鐘を鳴らしている（画像は一部修整しています）

※延べ人数。東京証券取引所などの株式分布状況調査に基づく
※個人には、任意団体などを含む

増える個人株主 トラブルも増

政府は、運用期間が無期限で、非課税の投資額が引き上げられた新NISA（少額投資非課税制度）導入など、個人投資を推進している。東京証券取引所などの調査によると、2022年度の個人株主数はのべ6982万人で8年連続で最多を更新。個人の株式保有金額も131兆円を超え、1970年度以降では最高となった。

トラブルの相談も増加傾向にある。国民生活センターによると、2022年度の株取引に関するトラブルの相談件数は前年度より96件多い809件で、23年度は2月までに850件を超えている。将来に備えて投資を検討している40歳代以上の被害が多く、同センターは「SNSをきっかけにした投資は慎重に判断を」と注意を促している。